

ZOCALO 2017 2 ▶ 3

ZOCALO=ソカロはメキシコの都市の広場を意味するスペイン語。埼玉県立近代美術館はアートを通して交流する市民の広場をめざしています。

時代を鮮やかに切り取ったデザイナー

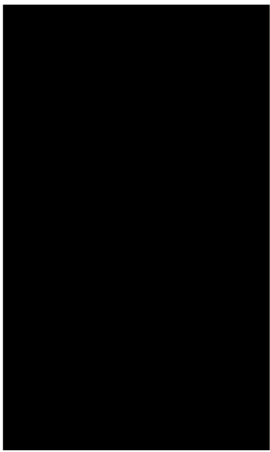
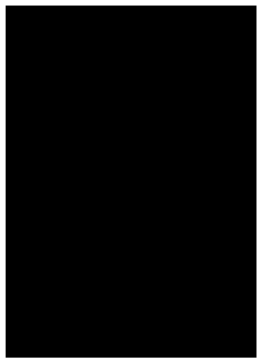
カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命
2017年2月11日(土・祝)～3月26日(日)

カッサンドル(1901-1968)はパリで活躍した20世紀を代表するグラフィックデザイナーです。沢木耕太郎さんの『深夜特急』(新潮文庫)の表紙で、その名を知った方もいらっしゃるでしょう。イヴ・サンローランのY、S、Lを組み合わせたロゴも、実はカッサンドルによるものです。

1920年代にカッサンドルが制作した幾何学的でダイナミックな構図のポスターは、当時のグラフィックアート界に「革命」とも言うべき衝撃をもたらしました。カッサンドルのポスターには、機械と大量消費に魅せられた時代の空気がまさに体現されていたのです。ポスターはパリの街のいたるところに貼られ、カッサンドルは一躍時代の寵児となりました。けれども、カッサンドルの活動はポスターデザインだけにとどまりません。1930年代以降は絵画の制作に打ち込んだり、雑誌『ハーバース・バザー』の表紙や舞台装飾・衣装デザインを手がけたりと、多様なジャンルで才能を発揮しています。

今回の展覧会では、ファッションブランド「BA-TSU」の創業者兼デザイナーである故・松本瑠樹氏が築いたカッサンドル・コレクションから、ポスターの代表作を中心に紹介します。国内ではおよそ20年ぶりの回顧展となる本展に、松本瑠樹氏のご子息の松本ルキさん、講演会の講師としてお招きする岡部昌幸さん、巡回館として協力して準備を進めてきた八王子市夢美術館の川俣高人さんが、メッセージを寄せてくださいました。(T.Y.)

上: カッサンドル《エトワール・デュ・ノール》1927年
下: カッサンドル《ノルマンディー》1935年
2点とも、パツアートギャラリーコレクション蔵
© MOURON, CASSANDRE, All rights reserved / JASPAR 2016 E2451



『ポスターは時代を映す鏡』

ポスター芸術に大きな情熱を注いだ亡父、松本瑠樹が、その生涯をかけての研究を通じ蒐集したポスターコレクションから、ポスター英雄時代の巨匠、20世紀最も偉大な商業芸術家と言われるA.M.カッサンドルの作品たちが、一堂に会します。**時代の憧れ**を形にした作品たちが醸し出す、アール・デコ時代の気分を、ぜひ、体感してください。

松本ルキ

われらが預言者カッサンドル

暗雲たちこめる1930年代動乱のヨーロッパ。第2次世界大戦の砲弾、爆撃の迫るパリ。そこに、20世紀から21世紀のグラフィックデザイン、雑誌、モード、ステージ、スポーツ、旅行、音楽の原点があった。スピードと美意識のカリスマ。誰もが憧れた。語り継がれ、模倣された。——われらが預言者カッサンドルの**魔術的リアリズムとデザインの秘法**を解き明かす回顧展が日本で開かれる。期待と興奮が高まります。

帝京大学教授 岡部昌幸

カッサンドル：20世紀のポスター大革命

かつて私たちは洞窟に絵を描いた。その後、絵画は建築を彩り、そしてキャンバスに描かれ個人の楽しみとなっていく。20世紀が始まった年に生まれたカッサンドルは、複製技術、交通機関、商業が劇的に発展した社会を背景に、大量、大型のポスターで、個人の営みとなっていた「アート」を街頭、都市へと開放し、今日の**グラフィックデザインの祖**となった。さて、ネット社会の現代ならば、彼はどんなSNS革命を起こしたのだろうか。

八王子市夢美術館館長 川俣高人

カッサンドル略年譜

- 1901(0歳) — ウクライナのハルキウ(ハリコフ)に生まれる。本名アドルフ・ジャン＝マリー・ムーロン。ハルキウとパリを行ったり来たりして、子ども時代を過ごす。
- 1915(14歳) — 一家でパリに定住する。
- 1918(17歳) — リュシアン・シモンのアトリエ、続いてアカデミー・ジュリアンで絵画を学ぶ。在学中から生活のためにポスターをデザインする。
- 1922(21歳) — この頃から、カッサンドルの名前を呼び始める。
- 1923(22歳) — 《オ・ビュシュロン》のポスターが大きな反響を呼ぶ。
- 1924(23歳) — マドレーヌ・コヴェと結婚。
- 1925(24歳) — 《オ・ビュシュロン》がパリの現代装飾美術・産業美術国際博覧会でグランプリを受賞。息子のアンリ・ムーロン誕生。
- 1927(26歳) — 《エトワール・デュ・ノール》など鉄道をテーマにした代表作を発表。
- 1929(28歳) — デザインした書体「ビュフル体」の見本帳が出版される。
- 1930年代半ばから舞台装置と衣装デザイン、および絵画制作に取り組む。
- 1936(35歳) — ニューヨーク近代美術館(MoMA)で回顧展開催。40年まで雑誌『ハーバース・バザー』の表紙を担当する。
- 1947(46歳) — ナディーヌ・ロバンソンと再婚。
- 1949(48歳) — 歌劇「ドン・ジョヴァンニ」の舞台装飾と衣装デザインを手がけ、高く評価される。
- 1950(49歳) — パリ装飾芸術美術館で回顧展開催。
- 1963(62歳) — イヴ・サンローランのロゴをデザインする。
- 1968(67歳) — パリのアパルトマンで自殺。

1930年頃のカッサンドル
photo: Roger-Vidlet / アフロ

アーティスト・プロジェクト #2.01 齋藤春佳

2017年2月11日(土・祝)～3月26日(日)

今年度から新たにスタートする「アーティスト・プロジェクト #2.0」は、学芸員が活躍中のアーティストを自由に推薦し、館内で自在に展開していく展示プログラムです。記念すべき第1回は、トーキョーワンダーウォール賞受賞(2011)、シェル美術賞入選(2016)など、実績ある若手の注目アーティスト、齋藤春佳さんが登場。齋藤さんに制作のコンセプトなどをうかがってみました。

——まずは今年のシェル美術賞の入選(国立新美術館で展示12/7-19)、おめでとうございます。

齋藤春佳(以下H.S.): ありがとうございます。こうした場でたくさんの方に見てもらえる機会があるのがとてもうれしいです。

——齋藤さんの展示を行いたいと思ったのは、一昨年見た展示に興味をそそられたからでした。犬、花、水面などがパステル調で描かれたカンヴァスと、力学的なコンセプトが感じられる天秤状の仕掛けを組み合わせた展示で、つながり方が簡単には見えてこない両者の表現の落差が面白かったです。

H.S.: カンヴァスには、身近なひとたちや愛犬、日常生活で見たものなどを、思い出しながらかいていきます。この間飲んだパックのリンゴジュースのこととか、死んだ犬や生きているけど目の前に居ない犬のこととか…そうした過去は、そのものとして今眼前には存在していないけれど、どこか、というか、ある仕方で実は今も存在しているんじゃないかと考えるんです。一方では、それはひとの記憶として存在しているんですけど、もう一方では、宇宙全体を見渡せるぐらいに視点を高くとって、例えば50光年先から地球を見られたとしたら、その位置からは50年前の出来事もやっぱりその瞬間に存在している、って思うんです。

——齋藤さんのインスタレーションでしばしば登場する天秤状の仕掛けは?

H.S.: 宇宙を形づくっている基本原理である重力の表現というか…。50光年先の例のように、空間の隔たりが過去と現在と未来の同等性を担保してくれるとするなら、それは立つ地面が異なれば、存在は必ずしも消滅しないということになります。この過去・現在・未来の同等性を目に見える形にするために、天秤構造をしばしば用いています。

——今回の展示タイトルになっている散文調の作品名も興味を引かれます。

H.S.: パックのジュースそのもの、またジュースになる前の果実としてのリンゴ、それらが液体になったり消費されたりして眼前からなくなっても、やはり何らかの仕方で存在するのだとしたら、そうしたあり方がこの世界である、といえると思います。その理に従って、現在の私たちが形づくられているのならば、反対に、私たちがこの姿で存在するからには、過去に存在して描かれたジュースもまだ現実のものなんじゃないか、と。

——「記憶」「存在」「重力」などが、齋藤さんの作品のキーワードになりますね。

H.S.: 一番は、きれいで愛おしいものももちろんだけれど、ささいなものも含めて、目の前の出来事すべてに消滅してしまっほしくない、というのが私の願いなんだと思います。誰かが丸めたティッシュがちゃんとゴミ箱に入っていないで量に転がって

いて腹立つ、みたいな光景も、消滅してしまっほしくない。ゴミはゴミ箱に消滅してほしいですけど…。けれども私たちは、出来事すべてが次の瞬間には消滅してしまう世界の仕組みの中でしか、この世界に居ることは出来ない。それは日常生活で使う考え方の仕組みではどうしても解消できなくて、だから自分には制作が必要になってくるのだと思います。そしてそういう想いに形をまとわせるときに、「記憶」や「重力」のような観念を手掛かりにしている、といったところかもしれません。

——埼玉での展示も期待しています。

H.S.: 展示タイトルになっているカンヴァスの作品(左下図版)はもちろん展示しますし、いろいろ挑戦してみたいと思います。

会期中には齋藤さんのトークも予定されています(裏面参照)。展示もイベントもぜひお見逃しなく!(聞き手:T.S.)

飲めないジュースが現実ではないのだとしたら 私たちはこの形でこの世界にいないだろう



《飲めないジュースが現実ではないのだとしたら 私たちはこの形でこの世界にいないだろう》(部分)2016年 断片的なイメージの群れとして構成された画面。



《ももちゃんの現在への現れ》(部分)2016年 ターナーギャラリーでの展示

齋藤春佳 SAITO Haruka

1988年、長野県生まれ、東京都在住
2011年、多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻 卒業

近年の個展

2013年 「たおれた花器の水面下ではもう一度同じ花が水を吸い上げている」
実家JIKKA、東京

2012年 TWS-Emerging2012
「思い出せる光景と思い出せない光景を見た地球から見える星も見えない星も公転しあっている、地球を含め」、トーキョーワンダーサイト本郷、東京

近年の受賞

2015年 アートオリンピック2015、実行委員会特別賞、東京
2011年 トーキョーワンダーウォール2011、トーキョーワンダーウォール賞、東京都現代美術館、東京
2011年 多摩美術大学卒業作品展、福沢一郎賞、多摩美術大学、東京